読書の世界へようこそ!!

県立図書館通信

2011.12月号

★クリスマスが間近です。クリスマスに関するおすすめの本も2冊紹介します★

『日本の未来について話そう－日本再生への提言－』

304
N,77

マッキンゼー・アンド・カンパニー／編集
小学館／発行　2011年7月／刊

著名人の考える日本の未来とは。

東日本大震災以降、日本の抱える数多の問題がより鮮明になってきました。私たちはこの国をどうすべきなのか？多くの人が案じているところです。本書では、様々な分野の著名人６５名が、日本の未来について真剣に語っています。『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』の作者・岩崎夏海氏、サッカー日本代表前監督・岡田武史氏、ソフトバンク代表取締役社長・孫正義氏、日産自動車社長カルロス・ゴーン氏などが、これからの日本のあり方を強く問いかけます。

『対訳イラスト 心にひびく日本のしきたり』

382.1
Ko,44

酒井信彦／監修　講談社／発行
2011年9月／刊

日本の良き文化を英語で！

古来より様々なしきたりが生まれている日本文化。いまでも当たり前に行われているものや、一部の人の間だけでしか伝承しなくなったしきたり、知っているようで知らない作法など、あらためて見れば、とても奥深いものがあります。日本人として知っておきたい文化を、イラストと英語対訳で解説している本書は、外国の方に紹介する際にも役立ちます。日常的なマナーや冠婚葬祭、正月などの年中行事について、理解を深めてみませんか？

お正月も紹介！

『キリストの伝説１聖なる夜』

949.8
L,13
1

セルマ・ラーゲルレーヴ／著
キリスト教視聴覚センター／発行
2011年9月／刊

キリストにまつわる神秘の話。

イエス・キリスト誕生の話を異なった視点で描いた三つの短編や、幼い頃のキリストを襲う、王による迫害の物語など、どの短編もファンタジー作品のように鮮やかで神秘に満ちています。著者のラーゲルレーヴはスウェーデンに生まれ、女性として初めてノーベル文学賞を受賞した作家です。彼女の作品を読めば、きっと読者は、美しく輝く魅力的な世界への“魔法の扉”を開くことになるでしょう。彼女自身が幼い頃に感銘を受けた、思い出深い物語も収録されています。全３巻です。

『龍馬をめぐる「志」の人間学』

281.04
G,16

岳真也／著　東京堂出版／発行
2011年9月／刊

時代を動かした英傑たちの志を知る。

幕末・明治期に時代の礎を築いた人物たち。彼らの多くが、坂本龍馬との交流がありました。昨年の大河ドラマ「龍馬伝」に主要人物として登場した岩崎弥太郎をはじめ、板垣退助、中江兆民、大隈重信、原敬、東郷平八郎、後藤新平など１７名の人物の龍馬交流エピソード、彼らの活躍について、軽妙な物語口調でわかりやすくまとめられています。激動期に生きた人々の生き様から、“人と人の出会い”がいかに大きな影響を与えるものなのか、また、「志」を貫き生きることの偉大さも学ぶことができます。

『春を恨んだりはしない 震災をめぐって考えたこと』

369.3
I,35

池澤夏樹／著　鷲尾和彦／写真
中央公論新社／発行　2011年9月／刊

震災が与えた衝撃を忘れないで。

東日本大震災が起こった時、あなたはどこで何をしていたでしょうか。そのニュースを知って何を感じたのでしょうか。作家である著者は旅の途中でそのことを知り、連日の報道をひたすら吸収する時を過ごしたそうです。大切な人や土地、財産が一瞬にして奪われ、その場所の凄惨さが長く放置される現実に触れて想ったことが綴られている本書。報道が伝え切れなかった現実を肌で感じて綴られた文章は、様々な感情を呼び起こします。震災で起こったことを、風化させずに心に刻む大切さを教えてくれます。

『31音 青春のこゝろ 2011 「SEITO百人一首」の世界』

911.16
Sa,64

同志社女子大学／編　NHK出版／発行
2011年5月／刊

短歌に刹那の想いをのせて。

同志社女子大学が開催する「ＳＥＩＴＯ百人一首」コンクールに応募のあった、国内外の高校生の作品２９７８３首の中から入選作を紹介した本です。学校のこと、家族や友達のこと、甘く切ない恋や抱えきれない悩み、進路や世の中のこと、さらには想像の世界の話など、日常のふとした時に現れる一瞬の情景を、わずか３１音の短い言葉で的確に表現しています。きらりと光る感性に、思わず共感してしまうことでしょう。

『ターシャ・テューダーのクリスマス 喜びはつかむもの』

386.5
Tu,3

ターシャ・テューダー／著
メディアファクトリー／発行　2010年10月／刊

喜びの季節に、愛を込めて。

絵本画家であり、ガーデナーとしても有名だったターシャ・テューダー。“クリスマスは一年でいちばん喜びにあふれる季節”と語った彼女が、家族と毎年行ってきたクリスマスのイベント、ロずさんでいた大好きな詩や、クリスマスにまつわる物語を、あたたかなイラストと共に紹介しています。絵の中の愛らしい子どもたちや動物たち、クリスマスグッズや風景を眺めていると、この“喜びの季節”への彼女の心からの慈しみを感じとることができます。

■編集■　佐賀県立図書館　企画課
図書館ネットワーク担当

お問い合わせはこちらまで。
次号は２４年１月発行です♪